

平成30年度第2回北区飛鳥山博物館運営協議会 会議録

日時 平成31年3月1日（金）午後4時00分～5時30分

会場 北区飛鳥山博物館 2階講堂

【出席】

運営協議委員一熊野正也会長、君塚仁彦副会長、吉田優委員、真家和生委員、
島山直也委員、大沢榮美委員、大関典子委員、松田英樹委員
博物館 一田草川昭夫教育振興部長、野尻浩行館長、石井達馬管理運営係長、
鈴木直人事業係長・学芸員、久保埜企美子主査・学芸員、
鈴木信也管理運営係主事、山口隆太郎学芸員、石倉孝祐学芸員、
工藤晴佳学芸員、田中葉子学芸員、安武由利子学芸員、

【欠席】

宮嶋淳一委員、中村都士治委員

【事務局】 皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから平成30年度第2回北区飛鳥山博物館運営協議会を開催させていただきたいと思っております。お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

では、北区教育委員会を代表いたしまして、教育振興部長よりご挨拶を申し上げます。部長、よろしくお願いいたします。

【教育振興部長】 改めまして、皆様こんにちは。お忙しいところをお越しいただきまして、まことにありがとうございます。運営協議会の委員の皆様方には、正副会長様をはじめ、日ごろから飛鳥山博物館の運営につきましてご指導いただきまして、まことにありがとうございます。

早いもので、3月、きょう、1日でございます。きょうは、皆様方に今年度の事業の中間の報告と31年度の事業についてご審議をいただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご承知のとおり、今、日本は外国人の方が大変増えておりまして、今回の政府の方針などにつきましても、雇用の問題もありますけれども、ますますこれから増えてくるだろう

というように思っています。これだけに限らず、グローバル化が本当に進みまして、さまざまな文化が入りまじって、また新しいものができていくのかなというふうには思っておりますけれども、逆に言いますと、それだけ、また私たちが足元の文化をしっかりと見つめ直して、またそれを保存し、さらには発展させていくということが大変重要になっているんだなというのを、つくづく感じるところです。その意味では、この博物館事業というのは、本当に、その象徴的な部分もございまして、ぜひその充実を図りたいと考えております。館長以下、職員、精いっぱいやらせていただいておりますけれども、まだまだ改善すべき点や、また新たに取り組むべき課題もあるかもわかりません。それぞれの皆様方にお知恵を拝借いたしまして、よりよいものとさせていただきたいと思っております。

きょうは、どうぞよろしく願いをいたします。

【事務局】 ありがとうございます。

では、次に、配付資料の確認をさせていただきます。

まず、本日の次第でございます。下の部分に、配付資料について表示してございます。本日の第2回協議会の座席表。そして30年度事業中間報告。昨年秋に開催をいたしました秋期企画展「都電の記憶～北区にゆかりの19系統・32系統を巡って～」の図録でございます。そして、事前にお送りいたしました資料でございますが、31年度の事業計画（案）、そして31年度催し物予定表。こちらは事前にお目通しをいただきまして、本日お持ちいただくようお願いしてございますけれども、お持ちでない方はいらっしゃいますか？ 大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

いつものお願いではございますけれども、当運営協議会につきまして、議事録といたしまして区のホームページに公開をさせていただきますので、記録のため録音をとらせていただきますこと、そして傍聴を希望される方がいらっしゃった場合には同席をさせていただきますことをご了解いただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、委員10名のうち8名の方にご出席をいただいております。東京都北区飛鳥山博物館条例施行規則第12条第2項に定められた開催要件であります半数以上の出席を満たしてございますので、ここにご報告をいたします。

それでは、今後の協議会の進行につきましては、会長をお願いをいたしたいと思っております。会長、どうぞよろしく願いいたします。

【会長】 それでは、ただいまから平成30年度第2回の北区飛鳥山博物館運営協議会を始めたいと思います。

本日の協議会の議事は、平成30年度事業中間報告と、31年度の事業計画です。

まず、平成30年度事業の中間報告について、事務局からご説明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

【事務局】 それでは、平成30年度事業報告、中間報告をごらんになっていただきながら、ご報告をさせていただきます。12月末日までの中間報告でございます。

1ページ目でございます。館の利用状況でございます。入館者数が7万9,195名です。開館日数228日でございます。29年度が8万5,796名ということで、若干減っておりますけれども、これは、例年どおりなんです、桜の開花が3月に早くなりますと、館に訪れる方が非常に多くなりまして、ちょうど、その4月の入館者数というものが、かなり大きく響いてくるところでございます。29年度、約半分、4月まで、平成30年4月は29年度の約半分という数字になっていましたので、それが大きくかかわっているところでございます。

続きまして、2ページ目になります。展示でございます。特別展示室で行われた展示でございますが、12月末現在までで5回、182日間、158営業日の中で、3万5,727名の観覧者がございました。こちら、29年度と比較しますと大きく異なっております。29年度は5万6,949名だったのですが、こちらのほうは、29年度が、春の企画展の会期を、通常、5月のゴールデンウィークまでとするところを、6月中旬まで会期を、通常よりも長く会期にいたしました結果、多くの方が29年度はごらんになったというところでございます。

平成30年度の企画展でございますが、春期企画展「徳川家光と若一王子縁起絵巻」を開催いたしました。

また、3ページ目でございますが、秋期企画展ですけれども、「都電の記憶－北区ゆかりの19系統・32系統を巡って－」を開催いたしました。

また、秋ですけれども、特別展覧会、通年行っておりますが、第17回を数えまして「人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」を開催いたしました。

続きまして、4ページ目でございます。こちら、例年開催しております好評を博しております、「夏休みわくわくミュージアム☆2018」としまして、夏休みわくわく展

示「道具のカガク」を開催いたしました。

また、開館20周年ということもありまして、スポット展示におきましては、かつて行いました「ASUKAYAMAセレクション5」というタイトルで行いました収蔵資料を紹介する展示を行いまして、タイトルも「かえってきた！ASUKAYAMAセレクション5－集え！収蔵庫のいれものたち－」という形で行いました。こちらのほうは、学芸員が収蔵庫の中から、これはというものをピックアップしまして、そのスポット展示を行いました。

続きまして5ページ目ですけれども、テーマ展示として、回想のためのテーマ展示「オポエテマスカ？－懐かしの暮らしと道具－」を開催しております。

続きまして6ページ目でございます。その他の展示でございますが、平成30年度が旧古河庭園100年ということになりまして、それを記念してパネル展示を行いました。

「旧古河庭園をめぐる人びと」ということで、ホワイエにパネルを展示いたしました。

続きまして、7ページでございます。3番のイベントになります。「夏休みわくわくミュージアム」、そして区民まつりに参加するという形で「GO！ゴー！ミュージアム」が行われております。

続きまして、8ページ目でございます。講座・講演会でございます。先ほども申し上げましたが、平成30年、開館20周年ということのを記念して、各講座を取りそろえております。一般向け講座・講演会、33講座38回行われまして、1,789名の参加がございました。展示関連講座・講演会では、8講座10回、323名の参加がございました。夏休みわくわくミュージアム講座では、15講座29回、770名の参加がございまして、合計で2,882名の参加が12月末までにご参加いただいております。

9ページ目に開館20周年記念講座、北区遺跡学講座リターンズ「豊島馬場遺跡」とございまして、こちらの講座は、かつて行われた講座なんです、落選された方をまた救済するという、そういうことも趣旨に盛り込みながら行われた講座でございます。

そして、12ページ目でございます。11番としまして、北区ジュニア考古学クラブ「教科書でみたあの時代に行ってみよう－縄文時代編－」ということ、こちらのほうは小学生・中学生の博物館利用、講座への参加というのが、通常、夏休みわくわくミュージアムに集中しておりますので、それ以外の時期に行ってみようということで試験的に行ったものでございます。

続きまして、21ページ目でございます。展示関連講座・講演会を開きました。先ほど

申し上げましたが、8講座10回を数えておりまして、春期企画展ですとかスポット展示、あるいは特別展覧会に附帯するような形で講座を開催しております。

続きまして、24ページ目でございます。夏休みわくわくミュージアム講座でございます。夏休みわくわくミュージアム2018に関連しまして、先ほど申し上げましたけども、15講座29回の講座を小・中学生と、その保護者を対象に行いました。

続きまして、29ページ目でございます。出張事業を行っております。12月末現在まで、回想法プログラム「昔の道具で思い出がたり」のほうは、お申し込みがなく、0団体、0回でございます。

一般講義として、4団体5回を数えております。具体的な内容につきましては、30ページ目でございます。一般講義としまして、特に区内の団体ですとか、そういった方々に出張という形をとりまして、学芸員がお話をさせていただいております。

続きまして、同じ30ページ目、団体見学でございますが、12月末現在までで53団体1,641名の観覧がございました。

特に31ページ目以降、具体的な団体一覧がございますが、やはりデイサービスの皆様が、こちらのほうにおいでになって展示をご覧になるというところが多く見受けられます。

続きまして、32ページ目でございます。小・中学校の見学でございます。小学校が13校700名、中学校1校32名で、合計16校、788名の見学がございました。特に、32ページ目のところの来館校一覧でございますが、東京国際フランス学園様が来館しております。北区にあるフランス学園でございますけれども、やはり学校のある地域の歴史を学びたいということで、こちらのほうの常設展示をご覧になっております。

それから33ページ目でございます。高等学校・専門学校・大学・大学院見学でございます。4校87名の観覧がございました。来館校一覧がございますけども、いずれの学校も歴史関係のゼミということで、先生が学生を連れて展示を見学なさっているというところがございます。

同じく33ページ目、保育園・幼稚園見学ですが、1園49名がございました。

続きまして、34ページ目でございます。学校対応・支援事業でございます。小・中学校の支援事業としましては、まず、出張授業を行いました。小学校におきましては、北区立東十条小学校で行いまして、中学校では北区立飛鳥中学校で行いました。

35ページ目でございます。そのほか、職場体験がございました。中学校2校、4名が実施一覧のとおり行っております。その他1校、2名を加えて、3校6名の生徒さんが当

館で職場体験を行いました。

高等学校・大学支援事業でございます。インターンシップがございました。東京都立飛鳥高等学校様から、例年ですと希望者がなかったんですが、今年度は1名希望するという事で、インターンシップをお受けいたしました。夏休みの期間中ですけれども、4日間、本館学芸員とともに日常の学芸業務を行いました。

続きまして、36ページ目でございます。連携事業でございます。なかなか、小学校・中学校との連携というのが図られているところがございますが、高等学校様と何か連携できないかというところの試験的なこととしまして、順天中学校・高等学校様と学校博物館連携講座という形で「日本最古のラーメンをつくろう！」ということを行いました。こちらは、その概要に記しておりますが、これまで余り連携のなかった高等学校とのコラボレーションを目的に試験的に行った事業でございます。これまで、江戸時代が最古とされていた日本のラーメンづくりが、室町時代にさかのぼることが区内在住の稲澤敏行氏の研究で明らかとなりました。氏は、当時で手に入る材料から試作を重ね、経帯麺という麺を復元いたしました。そこで、区内の高等学校と連携して、区内研究者の研究成果を生徒みずからつくることで、身近な食文化への関心を深めてもらうことを目的として、本講座を企画いたしました。当日は、中学生も含めた家庭科部員が、ラーメンの歴史について解説を聞いた後に、稲澤氏の指導のもと、日本最古のラーメンをつくって試食しました。

次に、協力事業でございます。筑波大学「ミュージアムにおける映像制作」研究への協力でございます。こちらのほうは、昨年度以来の継続的な形です。学芸員自らが常設展示室に関連する映像を制作して、その制作の手間ですとか、それからどれぐらいのレベルのものができるかですとか、そういったことを図るという、そういうモデルパターンとして当館の3名の学芸員が映像制作を行いました。「ミュージアム展示ガイドアプリ“ポケット学芸員”」を通じて公開しました。こちらは、一般の皆様へ二日間にわたりまして評価実験を行いました。それが筑波大学の西岡教授から、日本展示学会において発表されたということでございます。

続きまして、37ページですけれども、学芸員実習でございます。博物館実習が、去年7月31日から8月12日にかけて行いました。3名の実習生が参加いたしました。この博物館実習は、学芸員とともに日常の業務を行うのですが、特に常設展示解説パネルというものを各学生さんにつくってもらいまして、それを実際に1年間常設展示のほうで掲示をするという形をとっております。今も常設展示室に行きますと、この実習生がつくった

パネルが掲示されております。

続きまして、38ページ目でございます。資料の貸し出しでございます。貸し出し件数は2件、貸し出し点数12点になります。特に39ページ目でございますけれども、5番のところに神谷中学校の先生が水おけとてんびん棒の貸し出しがございます。これは、社会科の授業で使用するために学校に持って行って、そこで実際にそれを見せるということをご希望なさって貸し出ししたところでございます。

続きまして、40ページ目でございます。資料の利用でございます。相変わらずですけれども、雑誌の画像、雑誌等に掲載するための画像データの提供ですとか、あるいはテレビ放映のための画像の提供ですとか、そういうことが多くございました。ただ、40ページの3番ですが、国立科学博物館のほうで、今、3万年前の航海徹底再現プロジェクトというのがございまして、日本列島に旧石器時代の人々がどのようにやってきたのかということ、実際に船をつくって、そして航海実験をするというプロジェクトがございまして、その研究をなさっている海部先生が、当館にございます中里遺跡出土の丸木舟、これをぜひ参考にしたいということで、3Dスキャン計測というのを実際行いました。

そのほかにも、明治大学の阿部先生が七社神社前遺跡出土土器を学術研究のために観察等されています。

続きまして、46ページ目でございます。資料の収集でございます。受け入れ件数6件で、資料件数23点の寄贈がございました。区民の方々が実際に使っていたさまざまな資料をご寄贈いただきました。

そして、48ページ目でございます。資料の保全でございます。例年どおり環境調査を行い、また、収蔵庫の薫蒸作業を行いました。

雑駁ではございますが、以上でございます。

【会長】 ありがとうございます。

それでは、今のご報告についての、皆様方のご質問、ご意見等ございましたらお受けしたいと思います。

何か、見てみると、すごい数ですね。これを学芸員の方が中心になってやっていただいていると思うのですが、時間、毎日、フルに動いてどうですか、まだゆとりがありますか。

【事務局】 ゆとりをとりたいのですが、なるべく体を壊さない程度で頑張っているところ

ろでございます。

【会長】 本当に、体に気をつけながら頑張っていたきたいと思います。

皆さん、どうですか。ご意見でもいいですし、あるいはご質問でも結構でございます。

何か、A委員、ありませんか。

【委員A】 いろんな、もろもろの講座をやられていますけれども、これは、受講される方は重なっているということも結構あるんですか。それで、顔なじみ、顔見知りというか、そういうところまで。どういう状況なんですかね。

【事務局】 かなりリピーターの方がおられます。考古学ですとか、歴史学ですとか、そういったところでのレポートもありますけども、横断的に博物館の講座そのものに興味を、関心をお持ちになってご参加いただいている方も結構ございます。ですので、お客様同士で顔なじみというか、そういったところも、かなり見受けられると思います。

【委員A】 それは、大変重要なことですね。選挙と同じで、基礎票というか、そういう核になるような人をつくっておかないと。つくっておくと、何をするにも便利、便利と言っては失礼ですけど、いいですね。何か講演会やるときにも、その人たちから口コミでやると、100人、200人集まっちゃうということもありますので。要するに選挙と同じですね、この集客方法。

それから、30ページに、毎年満員になっていると思うんですけども、北区役所職員研修ですよ、これ、毎年やられているわけですね、いつも。僕は、いつも思うんですけど、やはり博物館に随分かかわってきて、いろんな地域博物館の小さな公立博物館にかかわっていることが多いですね。一番、博物館に理解がないのは、職員なんですよ、区の。その正規の職員が一番関心がないというのは不思議だなと、いつも思うんですね。恐らく5月15日と16日の区の職員研修のときに、やられたと思いますけども、常設展示を見ていただいて、特別展示を見ていただいて、それからバックヤードも見ていただいて、博物館って、こういうものですよって、ちょっとつまらないイメージがありますが、皆さんで何かいい知恵出してくれませんかみたいなことで、意外と、そこがネックなんですよ。そういうこと、お感じになりますか。もう、何か今さらという話でもありますけれ

ども。北区の場合には、区の職員の方々が、どういう理解を示されているかということですよ。いかがでしょうか。

【事務局】 こちらの30ページのところでありますのは新任研修でございますので、まず、新しく、こういった博物館があるということを知っていただくということと、それから、初めて北区を訪れた新しい職員の方もいらっしゃいますので、北区の歴史について、まず知ってもらってということでございます。ただ、新任職員のための研修を行っていませんけれども、それ以外の、いろんな広報の取り組みですとか、そういった中で、この博物館に職員が取材に来たりですとか、そういったこともありますので、少しずつですけども、浸透といいますか、目を、ちょっとでも向けてもらっているのかなと思っております。

【会長】 どうですか、よろしゅうございますか。

これは余計な話になりますけど、もう大分昔の話です。私は、市川市の歴史博物館長をやったとき、これは初代の館長なんです。11名の職員を採用することにしました。その採用して、入る条件として何かというと、全員が学芸員の資格を持っていることという条件をつけたんです。その条件を持った人たちが入ってきまして、そのうち半分は、専門の職務にしたんです。あとの半分は、博物館の庶務とかなんかもやると。庶務をやった人は、どういうことかということ、予算もやる。予算をやって、本庁にしょっちゅう通っていたんです。そういうことで、本庁の職員との交流を図り、それがある時点になったら、今度は交代して、同じように博物館というのを知ってもらうためにも、そういう方法を講じたらいんじゃないかということをやった記憶があります。それが、A委員はいろいろ一緒でしたよね。

【委員A】 そうですね、実践させていただきました。

【会長】 そういうことを、ある程度、事務的な面も知らないと、ただただ学芸員でございますじゃあ、やっぱり通らないんですよ。やっぱり、庶務の席に入っていたりすると、誰も、そういう予算関係とか、事務関係ができるんだということを見てもらわないとなかなかできないということがあったもんですから。それは、もう何十年も前のことなので、今はそういうこと必要ないだろうと思うんですけども、そういう方法を講じた記憶があり

ます。今、そういうことも踏まえて、A委員の、そういう話だったんじゃないかというように思います。もし、今から参考になるようだったら、一部でも取り入れればというように思います。

そのほか、質疑ございませんでしょうか。

【委員A】 もう一言言わせてもらいます。

北区さんの場合には、学芸方と事務方が分業でやられているということは、これぐらいの規模ですと、そういうことでいいんですけども、私が見ているようなところは、正規の職員が一人で、それから非常勤を二人という、こういう、人口が6,000人とか7,000人とかという、そういうところですよ。そういう小さな地方公共団体は、やっぱり正規の職員というのは1名雇えるか雇えないかなんですよ、現実には。東京23区だって、ほとんど今、非常勤ですよ、ほかの協議会にも参加してますけども。だから、熊野会長が今言われたのは、1名とか2名規模ですね。それは、やっぱり行政ができて学芸員はできないんですよ。学芸員で入って、行政は、僕なんか一番苦手だったんですけど、できるんですよ。だから、その1名というのは、少ない、その規模の博物館のことを、北区の博物館に何か応用できるかどうかわかりませんが、とにかく、学芸員で入ってきた人には、行政もさせるということで、僕が一番やったときは、週3で学芸員して、あと半分は事務室にいて、僕は、企画書を書くのは苦手だったもんですから、それを書いて、本庁に行って、本庁を飛び回って、それで、いろんな友達、財政とか、いろんなところ、土木部とかの地元出身の、そういう人たちと色々な友達になりましたね。だから、学芸員でも行政の道は努力すればできるんだと。でも、逆に事務職に人は、学芸員の仕事はできないぞという、その辺の採用の仕方を、うまく塩梅を考えていくと、いわゆる北区の場合には、地域博物館としては大規模ですけど、何かいろんなことに応用できるんじゃないかなというふうに私は思っています。

【会長】 本当に、今のA委員の経験、確かに一理あります。その一部でも役に立つものがあつたら、どんどん取り入れるべきじゃないかなというふうに私も思います。

いかがでしょうか。よろしいですか。

次、何か、今のいろんな事業につきまして、何かご質問とかどうでしょう。

【委員B】 私も、よく講座とか参加させていただいているんですけども、カラー仕様ですね、これ、ことしから始められたのですか。非常に、私も、きれいでいいなと思ったんですけど、ただ、とても100円では済んでないんじゃないかという気がいたしました。実費としては500円ぐらいかかっているんじゃないかという気がしたんですけども、あれ、どうなんですか、白黒選ばれる人っているんでしょうかね。

【事務局】 実は、私の講座で、モノクロ資料と、それからカラー資料をご用意しまして、ご希望の方は100円を頂戴してカラー資料で、もしカラーじゃなくてもいいよという方なら白黒のモノクロの資料を無料でお渡しするということをしたんですけども、ほとんどの方がカラー資料という形になりました。1名だけモノクロを選ばれた方いらっしゃいましたけども、そういう状況でございました。

【委員B】 わかりました。私も、周りを見たところ、ほとんどカラーだったので、白黒は要らないんじゃないかなと思ったというふうなことで、経費節減のためにも、何かその辺、ちょっと工夫していただければなという気がいたしました。

ありがとうございました。

【会長】 そのほかにはございませんか。ご質問でいいので、あるいはご意見があったらご意見を。

C委員、何かありませんか。

【委員C】 3点感想があるんですけど、ちょっと時間の関係もありますでしょうから、1点に絞って申し上げますと、29ページで、回想法ですけど、一応、館のほうとしては準備されたと、申し込みはありませんでしたということで、これ、相当もったいないと思うんですね。やっぱり、回想法のプログラムという、博物館と医療あるいは福祉との連携ですね、博福あるいは博医連携という、そういう立場で事業を行っておられるのは、この北区飛鳥山博物館さんは、日本の中で数少ない館の一つでやっておられて、これを出したままというのは、本当にもったいないと思うんですね。それで、どういうふうにしたらというのを、30年度の感想というよりは、次につながる形になるかと思うんですけども、今、A委員や会長がおっしゃられたように、やっぱり、これは、館としてこういうのをや

っていますよと言うだけではなかなか、つながりはつくりにくいところがあるんじゃないかと思うんですね。団体見学でデイサービスさんがたくさん来られているので、それも一つとは思いますが、館だけでなく、区全体で、そういう取り組みを、福祉の担当の方なんかのお知恵をいただきながら、継続してやっていくという、そういう方向になればいいんじゃないかなというふうに、ちょっと思いました。

【会長】 今、本当に、C委員の言われた回想法というのは、社会的にも非常に、重視されてきているんですね。それが無いというのは、何か非常に悲しい、恐らく知らない人が相当いらっしゃるんじゃないかと。もっとも具体的に、そういうのがあったんだというのがわかるような方法を講じてやることによって、もっと人が増えるんじゃないかなと、そんな感じがします。ひとつ研究をしてもらえればというように思います。本当に大事なことだと思います。

これは、やがて、本当に北区の飛鳥山博物館の大きな財産になってくると思います。今、変な話ですけども、認知症にかかる人が年々ふえて、高齢化になってですね、そういう人たちに、もっともっと利用される博物館であってほしいなというふうに思います。そういうようなところ、よろしくお願ひしたいと思います。

そのほかに、何かございませんでしょうか。

あるいは、学校関係のほうで、畠山委員、ございませんでしょうか。

【委員D】 本校、飛鳥中学校のほうでは、社会科の授業とのコラボレーションを毎年やっていたというので、ありがとうございます。ちょうど自分の学校が西ヶ原貝塚の上にあるんだというのは、1年生対象の縄文時代の学習で非常に役に立っていて、今後も継続していきたいなと思います。実際、授業も見させていただきましたが、本当にいい感じで、いい授業という形でやっていたというので、ありがとうございます。

こちらのほうは、1年生対象という形でやっていたというのですが、ここ自体が飛鳥山公園ということで、今度は2年生の初めのほうで、江戸時代の吉宗のところあたりで飛鳥山公園と吉宗の政治みたいな形で、授業が1時間できるといいんじゃないのかというのを社会科の教員とも話をしているところです。ただ、うちだけが独占しちゃっていいのかなという思いも。授業のほうは、12校中学校があれば、大体同じぐらいのペースでいくので、できればうちだけで独占させていただければありがたいなと思っています。

それから、あと、レプリカを神谷中に、水おけとてんびん棒というのを貸したということなんですが、こちらのほうは、新田開発とか、何かそんなところで使ったのかなと思うのですが。何か中学校の歴史の授業とかで貸し出せるレプリカとかというのが、もし一覽みたいなのがあればいいと思います。持ち運ぶのが、ちょっと大変だと思うんですけど、この水おけとてんびん棒だったら、飛鳥中までだったら、すぐ持っていけるんでいいんですけど、ちょっと遠い中学校だと、車をチャーターしてというと、結構お金がかかるのかなと思います、レプリカ貸し出しもできますよみたいながあると、すごくうれしいなというふうに感じました。ありがとうございます。

【会長】 ありがとうございます。

そのほか、E委員いかがでしょうか。

【委員E】 31年度の事業報告のほうで……。

【会長】 それでは、他にご意見・ご質問をどうぞ。

【委員F】 今の学校対応の支援事業に関することなんですけれども、これは、小学校・中学校から依頼があって、こちらから伺ったということなんでしょうか。

【事務局】 こちらから出張事業ですとか、そういったものは、学校様のほうから依頼があって、それで受けていました。

【委員F】 校長先生にお伺いしますけれども、学校で、校長先生方がお集まりになって、お話しする機会っていうことはありますでしょうか。

【委員F】 それは、毎月やっていますけど。

【委員F】 そういう機会がありましたら、うちの学校ではこういうことをしているんですが、ほかの学校ではいかがでしょうかということ、少し広めていただくと、ほかの学校でも支援をお願いしやすくなるのではないかなと思うんですね。

【委員D】 わかりました。今度、話題にのせたいと思います。

【委員F】 お願いいたします。

それから、歴史とか戦争と暮らしとか、そういうことではなくて、生き物とか、それから、王子は近代工業発祥の地だったりしますので、そういうことに関しても対応できるように、何か一覧表をつくって、こういうことでしたらできますよというのがあったらわかりやすいなと思うのですが、いかがでしょうか。

【事務局】 貴重なご意見、ありがとうございます。

なかなか、これまでは受け身的でしたので、何ができるかというところを、こちらからお出ししまして、それで今後進めていければ、もう少し広がりができるかなというふうに思っております。まだ、学校の先生も、ここの博物館で何ができるのかということが、まだご理解していただけてないところもありますので、こちらから、もうちょっと積極的に働きかけをできればというふうに思っております。

【会長】 ありがとうございます。いろいろと貴重なご意見、あるいはご意見が多くありましたので。どうぞ。

【委員G】 感想は後で述べることにして、質問をさせていただきます。一つは36ページにある学校博物館連携講座の「日本最古のラーメンを作ろう！」という取り組みについてです。多分、日本の博物館で最初のテーマじゃないかなと思うような取り組みなのですが、どういう経緯でこの活動が実現できたのか。博物館側から、あるいは学校側からのオファーなのか、その点を教えていただきたいということ。それから、その講座を実施してどのような効果があったのか教えていただければと思います。それが1点目です。

もう一つは、9ページに書かれている点についてです。飛鳥山博物館は、日本の公立博物館の中でも、国内で考えられる全ての事業に取り組んでいる博物館であると高く評価させていただいていますが、「こんにちは赤ちゃん体験講座」という取り組みですが、これも博物館で行う子育て支援とでも言うのでしょうか、こういうところに着手したことは評価されてよいと思われます。歴史系博物館では、おそらく我が国最初の事例の可能性もあ

るのではないかと思っています。東京おもちゃ美術館のような事例はあるのですが、歴史系では見たことがありません。16名の方がお見えになっているということで、企画の広さとか深さだけではなく、対象者を広げる、広がりを持たせるということに、大変なご努力をされているということを感じるのですが、この活動を通して、参加者からどのような反応があったかであるとか、どのような効果があったかということについて質問させていただきます。よろしくお願ひします。

【事務局】 まず、最初の1点目の学校博物館連携講座、高等学校様との連携ですけれども、きっかけにつきましては、私のほうから説明いたします。

実は、順天高等学校様の理事の方々が、ぜひ、こちらのほうを見学したいということがありまして、その方々をご案内しました。これが二、三年ぐらい前になるのですが、常設展示室をご案内したところ、江戸の花見弁当のところ、その理事の方々が、こういう花見の弁当があるんだったら、学校の家庭科の授業とか、何かそういったので、こんなものあったんだよというようなお話ですとか、実際に子どもたちがつくって、それについて指導をしてもらえとか、何か一緒にできる感じですよなんて、ちょっとつぶやきのようなことでお伺ひしていまして。そのときは、そういうことができるといいなというような思いだけだったんです。それが、ちょうど20周年を迎えるに当たって、じゃあ、高校とのコラボレーションみたいなものも、ちょっと模索していったらどうかなというふうに思ったときに、それを思い出しまして、そこで学芸会議の中で、こういうことはどうだろうかという話を出しました。そこで、当館の学芸員が、Iさんのことが新聞に取り上げられているということを知り、以前そういったようなお話があったのだしたら、そこでつながって見たらどうだろうかということで、企画をしたところでございます。

その効果につきましては、担当した学芸員のほうから。

【担当学芸員】 ラーメンは、私、茨城県に住んでおりまして、徳川光圀がラーメンをつくったと言われて、町興しになっているんです。そういうこともありまして、また、個人的に、明代の中国の、そういう文献を私が持っておりましたところ、ちょうど横浜ラーメン博物館で、Iさんの展示もございました。この方が北区西ヶ原で製麺の会社を営んでいらっしゃるしまして、また、個人的に、こういったものを研究されているということ、いろいろ伺っております、今、お話がありましたように、一番、博物館として手薄な来館

者層である高校生に、何が一番遡及できるかということで、やはり旺盛な食欲を持っている高校生たちにラーメンというテーマ、それを単に、食育とか、そういうレベルではなくて、歴史の授業の中の一環としてやっていこうということで、私のほうで企画をしまして、Iさんには麺をご提供いただいたわけです。スープや具材については、中国の本を使って、私どものほうで、ちょっと試作をしてみて、一緒にコラボという形で、Iさんと、こういったことに臨みました。

ちょうどそのとき、家庭科部の生徒さんが大勢食された後、何か部活の生徒さんも後からたくさん参加されて、わさわさと食べていらっしやいまして、それがどの程度の効果になったか、来館効果になったかは、ちょっとわかりませんが、一つの試みとしてこうなったということでございます。

【事務局】 では、三つ目の、こんにちは赤ちゃん講座のアーユレディのほうは、担当の学芸員のほうから。

【担当学芸員】 こちらの講座としましては、まずは博物館の存在を知っていただくということや、親しみを感じてもらいたいということを目的に企画した講座です。飛鳥山公園の中には、多くの方が来園されていて、その中には若い子育て世代の方もたくさんいらっしゃるのに、実際、博物館で講座の際ですとか展示を見学いただいた際なども、アンケートを見てみると、主要な利用者層は65歳以上の方が占めているというところもありました。ですので、公園にいらしているのに博物館の中まで入っていただいて利用していただかないのはもったいないなというところがありまして、まずは存在を知っていただく、親しみを持ってもらいたい、そのきっかけづくりとして、こういった講座を企画しました。

そういったところで、この講座では3部構成としまして、妊婦体操、一番は妊婦さんが、子育て世代の方が興味を持ってらっしゃるところを呼び込む材料にしまして、それと、妊娠に関係する体験講座をするということと、あとは一番行いたかったことでガイダンスをする。博物館の諸施設の話。ここには赤ちゃん休憩室ということで、授乳したり、おむつ替えをすることができる施設、公園内で唯一の場所になりますので、そういった便利なところもありますよというお話をするのと同時に、あとは、お子さんが、生まれて、大きくなっていくと、博物館では、こういった取り組みをしています、こんな講座をしています、小学校対応授業をしています、そういったことも紹介するというガイダンスを行う3部構

成で実施しました。そういったところ、博物館に来てみて、きれいだし楽しかった、こんなに便利だとは思わなかったというようなご意見とともに、子どもが成長したら、また来たいと思いますというような、肯定的な、非常にうれしいご意見をいただきましたので、実際に、なかなか手探りで始めたものなんですけれども、効果は徐々に、ことしで3年目だったんですが、あらわれてきているところではないかと思っていますところでは。

【会長】 ユニークな取り組みだろうと思います。

大分、時間も経過してまいりましたので、皆さん、いかがでございましょうか。これ、ご承認願えますか。ご承認願えたら、拍手でお願いしたいと思います。

(拍手)

【会長】 ありがとうございます。

では、引き続きまして、次の、平成31年度の事業計画についてご説明をお願いします。

【事務局】 それでは、平成31年度、北区飛鳥山博物館事業計画（案）でございます。

1ページ目でございます。平成31年度展示・イベント・講座・講演会事業計画のポイントをご説明させていただきます。

まず、展示事業でございますが、速報的展示の実施を行います。資料調査の結果を速報的に展示し、広く公表するという事で、ミニ展示を行います。ページでいきますと、4ページ目でございます。「凹みが語る縄文文化」という仮のタイトルをつけておりますが、これはどのようなことかといいますと、先ほど事業報告の中で、資料の利用というところで、明治大学のA教授が当館の資料を観察、調査ということでいらっしゃいました。そのときに、縄文時代前期の土器の調査をされたんですが、そこに同行されていた方に縄文人の植物利用について研究している方がいまして、実は、最近になって縄文時代の表面あるいは中に、植物の種子ですとか、特に大豆、小豆ですとか、エゴマですとか、そういったものが練り込まれているということがわかってきています。その方が、その縄文時代前期の七社神社前遺跡の土器に、クレーターのようにくぼみがたくさんあるということが気づかれました。そこで、ちょっとこれを調べさせてほしいというようなことがありまして、予備調査をしましたところ、どうもこれは、まだ確定ではないんですが、漆の実の可能性

があるということで、A教授いわく、縄文前期で、そういったような例というのはあまりないのではないかとということで、これは本格的に調査されたらどうですかというようなご助言をいただきました。そこで31年度の事業としまして、財政課とも協議し、31年度の予算の中で、ぜひとも、こういう調査をしたいということを説明しまして、何とか予算をつけていただいたところでございます。そこで、31年度の上半期に調査を行いまして、下半期で、その成果の速報展示をするというところで行ってみたいというところに落ちつききました。ほぼほぼ間違いないだろうということで発車したところでございますので、下半期に、こういったことを計画しようということになっております。

1 ページ目に戻りまして、(2)の講座・講演会事業でございます。大きなところでは、利用者の拡充というところでございます。その中で、新たな利用者が参加できるような講座の工夫を行うということで、新規講座の開催ですとか、先ほどもございましたが、未就学児や小中学生が参加できる講座を開催するということであげました。新規講座に関しましては、全体の中で20講座ほど新規講座としてあげております。

そして、未就学児向け講座と、それから小中学生向け講座も、一つ取り組んでいこうと思っております。ただ、小中学生向け講座というのは、夏休みわくわくミュージアムの講座に集中していますが、それ以外のところで展開をしてみたいというところで行っております。

平成30年度のところでも、先ほど、ちょっと触れましたが、北区ジュニア考古学クラブを今年度も予定するところがございます。7ページ目の4番で、北区ジュニア考古学クラブ「遺跡を歩こう!」とあります。こちらのほうの趣旨ですとか、それから今後の展開予定ですとか、そういったことにつきまして、ちょっと担当の学芸員のほうからご説明させていただきますと思います。

【担当学芸員】 このジュニア考古学クラブは、趣旨としましては考古分野に興味のある小中学生を対象としたもので、学芸員とともに遺跡見学や資料整理、物づくり体験などを行う中で、考古学への興味や関心を深めていくということを目的にしたクラブです。この取り組みを始めたきっかけとしては、ここ数年、一般向けの講座で、大人にまぎって小中学生が参加する姿というのを見かけることが多くなってきたところにあります。なので、未来の考古学者と言うべきか、その子たちの意欲を育む手伝いですとか、活動の場づくりを博物館ができればと思って企画したものになります。

今年度としましては、その需要を図るべく、単発講座として3回開催したところなんです。いずれも定員を超える応募をいただきまして、また、実際に行った感覚としましては、本人の興味や関心というのが応募の動機になっていることもありまして、夏休みのわくわくミュージアムのときに、土器づくり教室や勾玉づくり教室ということで、考古系の講座は幾つか行っているんですが、その講座に参加しているお子さんたちよりも、かなり参加意識が高いというところを感じました。また、リピート率も非常に高く、冬に開催した第3回の応募者、その大部分の方は、以前にも参加したことがあるというお子さんでした。そういった実績から、このような活動が十分に需要があるという感触がつかめましたので、来年度から本格的に活動していきたいと考えているところです。

来年度の活動としましては、まずは、この4番にもありますように、6月に遺跡を歩こうということで、遺跡見学会を行いたいと考えています。ここでは、整備されていない遺跡を訪ねて、古代人の痕跡を探ると。ここでは、整備されていない遺跡ということで、土器などの破片をたくさん拾うことができる場所になります。なので、そういったものを拾い集めながら、いろいろな時代の遺跡を歩いていこうと考えています。発展系としましては、希望者とは別に、その後、夏休み期間を利用して、見つけた土器のかけらなどを洗ったり、本などで調べてどういったものなのかを調べて調査カードを作成するというところを行っていきたいと思っています。

このような活動を通して、今後、自分で現地見学をするときの楽しみ方ですとか、深め方を知ってもらえたらというふうに考えているところです。

今回は、まず、きっかけづくりとして、この6月に開催するのですが、その後については、事業計画等にはあらわれてこない部分になるのですが、クラブ内での、子どもたちとのやりとりを通して、この間は土器のかけら拾ったから、今度は自分で縄文土器をつくってみたいという話になったら、文様をつける道具から再現をしながら土器づくり教室をしたり、もっと別の時代の遺跡に行きたいとなったら遺跡見学をしたりというような形で、子どもたちとのやりとりを通して具体的な活動内容を決めていって、1年間を通してさまざまなことに挑戦していきたいというふうに考えているところです。

【事務局】 ちょっと補足的ですけども、ここの4番に上がっているのがクラブというふうに名前がついていますが、一応講座でございます。ただ、本当のクラブもつくっていききたいというふうに思っているところでございます。

重点のポイントにはないのでございますが、14ページを、ちょっとお開きください。14ページの30番に、対話型鑑賞のすゝめ〈見て→考えて→話して→聞く〉という講座がございます。この講座、平成30年の中間報告には出ておりませんでした。平成30年度にも取り組んでおりまして、このような形で行う講座というのは当館では今まで例がありませんので、その取り組みのきっかけですとか、それから今後の展開ですとか、そういったことを担当のほうからご説明させていただきたいと思います。

【担当学芸員】 対話型鑑賞の講座についてお話させていただきます。よろしくお願いたします。実は、こちら、本年2月に一度「対話型鑑賞のすゝめ」と、同じタイトルで講座を実施しております。このタイトルにある対話型鑑賞というのは、グループで一つの作品や資料を見ながら、発見や感想、あとは生じた疑問などを話し合っ、コミュニケーションを通じて資料を鑑賞して、その鑑賞を深めるというものです。こちらは、私が昨年度、文化庁主催のミュージアムエデュケーター研修というものに参加をいたしまして、この対話型鑑賞というものを知ったことがきっかけで、やってみたいなと思ひまして実施しているものです。

その対話型鑑賞は、1980年代にニューヨーク近代美術館というところで開発されたビジュアル・シンキング・カリキュラムというものをもとにしているもので、その対話型鑑賞によって講座の参加者が資料への理解を深めることだけではなくて、洞察力や批判的思考力、あとコミュニケーション能力、あとは主体的に学ぶ力というものを養って行って、異なる考えを持つ人とともに生きるための知恵を身につけることができるということで、こちらの開発がされました。

これらの能力というのは、今度、新学習指導要領が改定されますけれども、そういったもので育成すべきとされている資質や能力、または社会人基礎力と言われている能力、そういった新しい学力観に共通するものであると思ひしております。

これまで、当館の講座というものは講義型のものが中心となっておりましたので、こういった双方向でのコミュニケーションをとりながらの講座というものをやってみたいということで試験的に行ったもので、この後も続けていきたいと思ひます。

そして、今回なんですけれども、その対話型鑑賞の講座をやるに当たって、いつもは机が並んでいて、そこに皆さん座っていらっしゃるんですけれども、この前の2月の講座では、机も資料もなく、アーチ型に座っていただいて、発言をしやすいような形で行いまし

たので、常連の皆様は、もうその時点で、きょうは何か違うぞということで驚かれています。

講座が始まってみると、ちょっと皆さん発言があるかどうかとても不安で、いつもと違うような講座なので受け入れていただけるかということが不安だったんですけども、始まってみると、参加者の皆様、積極的にご発言いただいて、アンケートにもいろいろな方々の意見が聞けてとても魅力的だったとか、あとは同じ資料を穴のあくほど、それも何回も見ることが大切なのだということに気がつきましたという、好意的なご意見がたくさんいただきまして、安心しました。

こちら、対話型鑑賞によって身につけられる能力というのは、今後、より社会で必要とされる能力でもありますし、継続して鑑賞を行うことでより高められるものでありますので、今後も、このような講座を続けて、夏休みわくわくミュージアムのほうでも、親子で鑑賞をするという講座を設けております。そういったことで、今後も続けていきたいなど考えております。

【事務局】 それでは、1ページ目に戻っていただきたいと思います。

2番の展示・イベント・講座・講演会の事業数でございます。展示は、平成30年度と同様、企画展、特別展覧会等、計11回を予定しております。

(2)のイベントでございます。夏休みわくわくミュージアム1回を予定しております。平成30年度、2回から1回に減りましたけれども、こちらのほうは3館の合同企画でございます「GO! ゴー! ミュージアム」を今年度は行わない予定になっております。と申しますのも、紙の博物館、渋沢資料館が、ちょうど区民まつりの開かれる秋からリニューアルで休館を予定されているということで、そういった3館合同企画を打つことが不可能ということで、イベントは夏休みわくわくミュージアム1回になっております。

(3)の講座・催し物でございますが、58講座83回を予定しております。

22ページ以降の展示・講座・講演会以外の事業は、例年どおり行う予定でございます。学校対応・支援事業、それから23ページでの学芸員実習、そして24ページ目の出張事業、そして同じく24ページですが団体見学、そして25ページでの資料の貸出・利用、資料の収集、そして26ページ目ですが、資料の保全ということで、燻蒸等も予定しております。

雑駁ですが、以上でございます。

【会長】 ありがとうございます。

資料のほうは、31年度の資料というのは、もうご自宅のほうに発送されていて、もう目を通されているだろうと思いますので。これ、今の説明について、ご意見等がありましたら、質問ありましたら大沢委員、何か。ちょっとご指名させていただきましたけども、ありましたら。

31年の事業について、今、説明ありましたですね。

【委員E】 私、今日来て、感激したことなんですが、私が入っている北区史を考える会、これはちょうど60年になりますね。たまたま隣に来ていらっしゃるボランティア、北区の観光ボランティアガイドさん。この両者とも、北区で生まれ、北区で育てていただいた組織なんです。去年ですかね、ちょうど赤羽台古墳、これ、私、赤羽、北区に住んで、私、赤羽の出なんです、手をかざして見れば、関東平野なんて見られるような、星美学園のところにある赤羽台地の郷ですか、それと、星美学園の歴史、赤羽台古墳並びに星美学園の歴史など、田んぼに行きまして。それからまた、赤羽というのは、軍のおかげで大変盛んになったというあれがあるんですよ。赤羽の近衛隊ですか、二つあって、今、社会病院ですかね、北社会保険病院ですか、そこが、近衛のあれですね、公園だった。それから、今、成立学園があるのが、第一師団の公園。そういうイベントをやりまして、そのとき、ボランティアの方々に来ていただき、7割の方は、一応、お仕事が終わってリタイアした方々なんです。そういう方が、人間が変わったように、郷土史ですか、自分の生まれた北区のことを何かすごく聞きたがり、また、興味を持っていますもので、驚きましたね。そういうことに関しては、当博物館が宝庫みたいなところでございますからね。私も、つくづく思うんですが、当館を、大いに、そういうリタイアした人にじゃんじゃん来ていただきたいと思うんですがね。いろいろ、そういう見学会なんかが終わって、そういう人に聞いてみると、博物館、ちょっと高嶺の花かなみたいな、ちょっと言い方は悪いですが、ちょっと行きづらいというようなね。というのは、日本の方々、仕事一途で、地域のこと知らないあれが多かったと思うんですがね。ですから、やはり、ますます当館、飛鳥山、これが本当、北区では絶景なところでございますもんね。三つ博物館があるし、ますます大勢の人に来ていただいて、楽しんでいただくところに、皆さん努力していただきたいと思いますね。

もう一つは、私、インバウンドのことを手伝っているんですが、当博物館で、いろいろブロッシェを、各、英語とか中国語、韓国語、そういうブロッシェをたくさん出していただいて、私、いろんな会に出て、PDFファイルというんですが、それにプリントしたのをみんな配って、大変役立っております。これ、向こうの人に聞いてみると、意外と、こういう、大規模ではございませんが、小さなダイヤモンドみたいに、そういう飛鳥山博物館みたいな、そういうのを見たいという外国の方、多いですよ。そういう点で、ますます、オリンピックも近いし、それから、また外国の訪問者も、日本の文化とか何かを知りたいという層が結構多いんですよ。買い物ばかりじゃなくて、最近は、そういう落ちついた、多少、日本に非常に興味がある方が、そういう人の啓蒙なんかにも、博物館が一番いいと思いますね。特に、大概、日本を見学すると帰っちゃった方、また来ないので、そういう方が多いんですが、意外と聞いてみますと、リピーターの方が多いんですよ。リピーターの方、びっくりしちゃいますね。で聞いたんですよ、どうしてと言ったら、日本は幾度となく大災害が起こっても、必ず復興すると言うんですよ。そういう日本人を見ると勇気づけられるなんて、そんなことを耳にします。

博物館に関係する人々、そういう、郷土の、そういう愛情を、困難を遂げたような、そういうリタイアした方々、そういう方々にも力を入れて、いっぱい、当博物館に来るような施策をされることをお願いする次第です。

以上です。

【会長】 ありがとうございます。

今のE委員からのお話というのは、本当に、地域の博物館としての、本当に原点であると思うんですけど。敷居を低くするとか、人が入りやすいようにしたりということも、よく考えていく必要があるだろうと思いますね。ただ専門専門にやっちゃうと、なかなか敷居が高くなったりなんかするので、その課題をどうするかということを考えながら、そういう方法を少し考えていっていただければというふうに思います。

それから、今、外国から非常に、去年ですか、3,000万人を超えた外国からのお客さんがあるという話も聞いていますし、ますます増えるだろうと、これから。そのときに、どういうふうに対応するか。用語等も、やっぱりちょっとは頭の隅に入れておく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

ありがとうございます。

引き続き、どなたかご意見、ご質問等ございませんか。

かなり、もう充実した計画ですからね、企画ですから、なかなか、それ以上の意見もなかなか出てこないだろうと思うんですが、どうでしょう。

それでは、一応、これを皆さんご承認いただけますでしょうか。もしご承認いただけるようでしたら、拍手をお願いします。

(拍手)

【会長】 ありがとうございます。

一応、進行については、以上でございましょうか。

では、進行を事務局にバトンをお渡ししたいと思います。ありがとうございます。

【事務局】 会長、どうもありがとうございます。皆様方におかれましても、貴重なご意見、多数頂戴いたしまして、ありがとうございます。

それでは、議事のほうも終わりましたので、当館、館長から閉会の辞を申し上げたいと思います。

【館長】 本日は、大変お忙しい中、第2回の博物館運営協議会にご参加いただきまして、本当にありがとうございます。

今年度の事業におきましては、リピーターになる人が大切だというお話でありますとか、また、学芸員が、やはり事務的な、庶務的な仕事をやることも、とても大切なんだよというお話、また回想法プログラムの福祉との連携でありますとか、あと中学校の授業での活用、また学校への周知等々、本当に貴重なご意見をたくさんいただきました。こういったご意見を踏まえまして、新年度の新しい事業も含めまして、博物館職員一同、北区の区民のため、また東京都民のために、また外国人の方も大分増えてきておりますので、そういった方々にも、開かれた地域博物館として、運営のほうをしっかりと行っていきたいと思います。

本日は、本当にありがとうございます。

【事務局】 ありがとうございます。

本年度につきましては、これで2回の協議会を終了したわけでございます。次回は、平成31年度に入りまして、上半期、できましたら5月ぐらいに開催をしたいなと思ってございますが、さすがに連休中というわけにはいきません。連休明けまして、5月の間に開催をというふうに考えてございます。できましたら、何曜日は都合がいいとか、都合が悪いとか、そういうご都合がわかりましたら、今、承れると日程を決めやすいのでございますが、いかがでございましょうか。具体的に何日というのはなくても、例えば何曜日が都合が悪いですよとかあれば、伺えるとありがたいです。

【会長】 火・木・土は、ちょっと都合が悪いです。

【事務局】 火・木・土が都合が悪いですね。

【委員C】 私、水曜日が。隔週なんですけれども、水曜日。

【事務局】 隔週ですね。

【委員D】 時間帯は、大体午後ですか。夕方。

【事務局】 基本的には午後を考えてございます。今回、ちょっとイレギュラーで夕方になりましたけど、逆に夕方が都合がいいということでございますか。

【委員G】 私が、多分、4月以降、月曜と木曜は附属幼稚園の園長の用がございまして。ただ、どうにかします。

【事務局】 ほかの皆さんは、いかがでございましょう。特に大丈夫ですか。

学校の先生につきましては、水曜の夕方というのは職員会議がおありですかね。

【委員D】 水曜の夕方にはないですけれども。この時間だったら多分来られるんですが、午後というと、いろんな行事が入っているんで、その都度都度ということ。

【事務局】 ありがとうございます。

皆様、よろしいですか。

ありがとうございます。それでは、今承りましたのを参考にさせていただきまして、また日程のほうを探らせていただきたいと思います。

それでは、これをもって第2回運営協議会を終了させていただきます。

この後、もしお時間が許す方おいででしたら、実は、昨日まで、私ども、先ほど事業報告の中にもございましたけれども、「来て、見て、さわって！昔の道具」展という、小学校3年生をターゲットとした事業でございますけれども、開催してございました。きょう、運営協議会がございますので、実は撤収をしないで、そのまま残してございますので、よろしければごらんいただければ幸いです。

では、これをもちまして終了させていただきます。どうもありがとうございました。